

## 大きなけやきの木の下で 絵本のはなしをしましょうよ。



2023年3月のはじめごろ こまばようちえん

みなさま、こんにちは！ あっという間に3月ですね。かえで組のみなさんは、もうすぐ小学校へと羽ばたいていきます。うれしいことです。（でも毎年さみしい気持ちにもなります…） こまばっ子たちは、幼稚園でたくさんの絵本と出会いました。これからもこどもたちのそばに、絵本がありますように。

今回は特別に、園長先生と真理子先生からも、かえで組の皆さんにおすすめしたい絵本を紹介してもらいました。さらに近藤千春先生からお祝いのメッセージもいただきました。

では、大きなけやきの木の下で、絵本のはなしをいたしましょう。

須藤麻江

【本のへや】からこんにちは♪\*\*\*\*\*

毎週木曜日は移動図書館の日。年少さんも3学期にデビューしました。先生たちが見守る中、借りたい本をそれはそれは大事そうに抱えて、貸出カウンターにいらんでいましたよ♡たくさんの本の中から電光石火で「自分の1冊」を選び出す人が多くてホレボレ(これは子どもの能力のひとつです。素敵ですね)

年中・年長さんはこの日を心待ちにしてくれている人が自分のタイミングで次々にやってきます。「(たくさんあるから)迷う〜!」「この前予約した本は?(←予約システム導入してます!)」「これ読んで〜」…幼稚園生活の中で、自然に定着してきた【移動図書館】。その素敵さと尊さに、きっとわたしが一番感動しています。いつもおしみなく力を貸してくださる保護者の方へ心からの感謝を。足を向けて寝ていたらどうしましょう(汗)。(近藤)

## ① たんぽぽ組・年少組のみなさんに。



### ●「ジェシカといっしょ」

ケビン・ヘンクス作・絵 小風さち 訳 徳間書店 2021年 1,760円

ルーシーにはジェシカという友達があります。どこに行くにもいっしょ。スープを飲む時も、怒る時も。ルーシーが5歳になれば、ジェシカも5歳。でも、パパもママも、「ジェシカなんかいない」というんです。ある日、ルーシーは幼稚園に行くことになります。ジェシカも一緒なんですけど、周りには、ルーシーはひとりぼっちに見えるみたい。すると、一人の女の子がルーシーに声をかけました。名前を聞いたら……ジェシカ！二人はすぐに友だちになりました。見えないジェシカがいてくれたから、見えるジェシカともすぐにとまだちになれたのですね。すてきな結末。(須藤)



### ●「うさぎのニコラス」

リチャード・スキャリー 絵 オーレ・リソム 作 木坂涼訳 好学社 2016年 1,540円

なんて素敵な絵なのでしょう。うさぎのニコラスは木のウロに住んでいます。春は花をつむのが好き。夏は丘に寝転んで鳥の歌を聞くのが好き。秋は落ち葉がいろんな色になって、冬を動物たちの巣ごもりの準備。そして、うろの中で春を待ちながら眠るニコラス。ただそれだけのお話なのに、読み終えた時に豊かな気持ちになるのはなぜなのでしょう。(須藤)



### ●『とだな』『ともだち』『うさぎ』『あかちゃん』

〈バーニングガムのちいさいえほん第2集シリーズ5・6・7・8〉より

ジョン・バーニングガム 作 谷川俊太郎 訳 (富山房) 1976年 800円

シリーズ中のどの本にも、あっと驚くような何かが起こるわけではありません。シンプルにつづられるのは、小さな子どもの〈日常(遊びと生活)〉です。文章は、子どもが誰かに語りかけるようなつぶやきにも似て、読み始めると、スーッとまっすぐに届

いてきます。子どもの〈今〉が、まさに〈子どもの言葉〉で表現されているようなとおしさ。作品世界の素朴さもいいなあ。読んでもらう子どもは、自分の等身大のような主人公に安心して、静かに共感できるのではないのでしょうか。そんなよろこびを感じあってもらえるとうれしいです。(近藤)



● 『ちいさいしょうぼうじどうしゃ』

ロイス・レンスキー 作 わたなべしげる 訳 岩波書店 1986 年  
1,100 円

絵本にはたびたび、子どもたちの“そうだったらいいな”を体現し、憧れを呼び起こしてくれる主人公が登場します。この絵本のスモールさんもそんなたのもしい一人でしょう。

今回は「しょうぼうしさん」となって、仲間たちといっしょに大活躍。火事の知らせで飛び起きるところからの描写は丁寧で臨場感があり、オノマトペも楽しいです。ねこを抱いたまま 2 階で取り残されていた女の子も無事に助けられてよかった！ 日常生活ではなかなか出会えない素敵な大人にさりげなく出会うことができるのも、絵本が大切な理由の大きなひとつ。だからもちろん、年中長さんにもオススメです。(近藤)

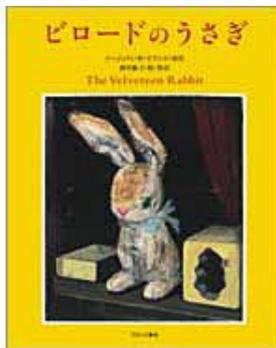
② 年中・年長組のみなさんに。



● 『クロのあたらしいうち』

エマ・チチェスター・クラーク作 こだまともこ訳 徳間書店 2021 年  
1,870 円

母犬が小さな黒犬に言いました。「飼い主の言うことをきくこと。こまった人がいたら助けてあげること」。黒犬は約束を守ろうとしましたが、飼い主はとてもひどい人でした。とうとう黒犬はロープを切って逃げてしまいます。町についた黒犬は、車にひかれそうになったおばあさんを助けましたが、おばあさんは救急車で運ばれてしまいます。黒犬はびっこをひきながら、とぼとぼとぼ……。大丈夫! 黒犬はおばあさんの犬になりますから。きっと、心穏やかに幸せに暮らすことでしょう。(須藤)



●『ビロードのうさぎ』

マージェリィ・ウィリアムズ・ピアンコ作 酒井駒子 絵・訳(ブロンズ新社)

2007年 1650円

私が泣いてしまう絵本は、「きつねのおきゃくさま」と「ビロードのウサギ」。子どもにとって、ぬいぐるみのうさぎは、生きているのです。「バイキンのかたまり」ですって？大人はなんてひどいことを言うのでしょうか。けれどもビロードのうさぎは、子ども部屋の妖精に本物のうさぎにしてもらえたのです。最後の坊やのセリフが……。泣きそうなので書くのはやめておきます。うちにもボロボロのクマがいます。息子がいつも抱っこしていたポンちゃん。本物にしてもらったら、ちょっと困りますけど。(須藤)



●「ビロードうさぎ」

マージェリィ・ウィリアムズ・ピアンコ作 ウィリアム・ニコルソン 絵

いしいももこ訳編 童話館出版 2002年 1,540円

原作の童話をいしいももこさんが訳しました。出版社は対象年齢 11 歳からとしています。いしいさんの訳が五感に響いて、絵本とはまた違う味わいがあります。



●『ことばのべんきょう全4冊』[くまちゃんのいちにち][くまちゃんのいちねん][くまちゃんのごあいさつ][くまちゃんのかいもの]

かこ さとし 作 福音館書店 1975年 1セット 2640円(単体でも購入可 660円)

最初にお伝えしますと…今まで、この本のことを「ことばのべんきょう」の本だと思ったことは 1 度もありません(笑)。“子どもと遊びと絵本の世界”に深く長く潜り続けてきた、加古里子(かこさとし)さんの作品。子どもたちが日々の「生活」で見聞きしているであろうたくさんのモノの名前やあいさつなどのコミュニケーションことばが、誠実な清潔感ある絵でわかりやすく描かれた上で、一つひとつ丁寧に表されています。子どもにとっては、知っていることばを確かめる喜びと知らなかったことばに出会う喜び二本立て。くまちゃん一家がなんともほほえましくて幸せそうなのに加え、どの本もきちんと“あたたかみ”のあるおはなし(物語)仕立てになっていてうれしくなります。読み返すたびに思わずニッコリ。(近藤)

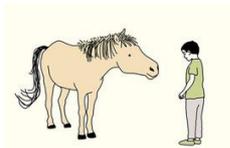


### ● 『ちゃぼのバンタム』

ルイーズ・ファティオ作 ロジャー・デュボアザン絵 乾 侑美子 訳  
童話館出版 1995年 ※重版未定

農場で飼われているちゃぼのバンタムは、体が大きくて強いおんどりの大将にいつも追い回されていました。そのうえ、体が小さくて声も悪い自分のことを、やっかいものの役立たずだと思い込んでいました。ある日、農場荒らしのこわいキツネがやってきて、バンタムがひそかに思いを寄せているめんどりのナネットに襲いかかります。おんどり大将は逃げますが、バンタムは命がけでキツネに飛びかかります。バンタムとナネットの運命やいかに！…ちゃぼのバンタムが見せてくれる、ほんとうの勇気と思いやり。最後、バンタムがおんどり大将にかけける言葉もお読み逃しなく。胸がスカッとする素敵な物語で、小学校のおはなし会でも人気が高いです。(近藤)

### ③ 大人のみなさんに。

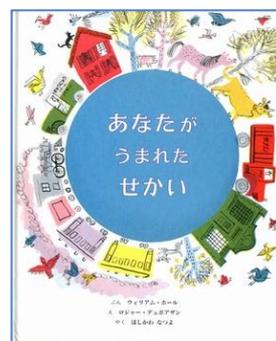


### ● 『ウマと話すための7つのひみつ』

河田 棧 偕成社 2020年 1,430円



与那国島で暮らす与那国馬と猫と暮らす作者が、馬語を話すための秘密を紹介する絵本です。「馬をよく見る」「馬の気持ちを想像する」「距離感が大事」などなど。人と人のコミュニケーションにも重ねることができるなと思いました。私は25年ほど前に雑誌の仕事で、与那国島に「島の子育て」取材しに行ったことがあります。在来馬である与那国馬たちが、岬でゆったり草を食べていた景色を思い出しました。同じ場所に座って海を眺めていたら、ウミガメがタプタプ泳いでいるのが見えましたっけ。(須藤)



### ● 『あなたがうまれたせかい』

ウィリアム・ホール文 ロジャー・デュボアザン絵 ほしかわ なつこ 訳  
童話館出版 2008年 ※重版未定

「あなたがうまれたせかいは、すてきなところですよ」…何度読み返しても、最初の一文に心が鎮まります。詩的でこよなく美しい絵本。味わうほどにまじめに考えたくくなりました。絵本は多様だからこそすばらしいのと同時に、“作り・手渡し・子どもと読む大人自身”が問われているものでもあるのでは？わたしたち大人は、未来ある子どもたちへ楽しく美しく伝え、共有する役目があるのではないだろうか…「わたしたちが生きている世界への絶対的な肯定感」を。

とはいえこの絵本はまずは大人に、“自分のために” 味わっていただきたいなあ。わたしたちの世界は素敵。そう、なにがあっても。(近藤)



● 『みしのたくかにと』

松岡享子 作 大社 玲子 訳 (こぐま社) 1320 円 1988 年

このタイトルは何?と思われることでしょう。実は「いなれしもかかいす」「いなれしもかおがさあ」ということばも出てきます。さて、わかるかな?

毎日、机上の勉強ばかりで心と体のバランスをくずした王子さま。孤独を抱え始めた王子さまを救ったのは、おおらかでポジティブで聡明な「ふとっちょおばさん」と「みしのたくかにと」な小さい種でした…。ふとっちょおばさんが「なにかがまちがっている」と直感した通り、王子さまの顔を青白く変えたのは、まわりの大人たちに“子ども時代”を保障してもらえない生活でした。読み終えるころには、“子どもにとって、心と体をたっぷり動かして感覚的にのびのびと遊ぶことがどんなに大切か(自然の力はさりげなくも絶大)”…が、説得力を持って染み入ってきます。そして、むしように「かぼちゃのパイ」が食べたくなるー！(笑)似た雰囲気をもとう『ピググル・ウィググルおばさんの農場/ベティ・マクドナルド作 モーリス・センダック挿絵 小宮 由 訳(岩波少年文庫)』『みにくいおひめさま/フィリス・マッギンリー作 間崎 ルリ子 訳(瑞雲舎)』もオススメです。春休みの大人の(親の)読書にぜひどうぞ♡(近藤)

## かえで組のみなさんへ

◎園長先生から。



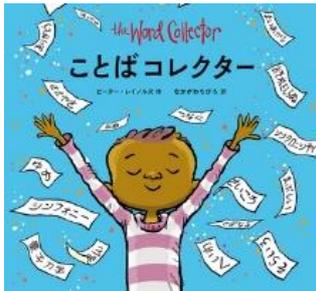
『ペニーさん』

マリー・ホール・エッツ作・絵 松岡享子訳 徳間書店  
1997年 1,430円

かえで組の皆さんと一緒に読むとしたら、何がいいかなと考えていて、ふと心に浮かんできたのが『ペニーさん』です。ストーリーが思い浮かぶ前に、愉快、爽快、そして心からの満足、という本全体の印象がよみがえってきます。ページを開くとすぐに、登場人物

のひとりひとりが実に個性的に、愛情こめて描かれます。賑やかに、ハラハラドキドキさせられながら急展開する前半の後に、一步一步こつこつと清潔で美しい場所が築き上げられていく様子が描かれます。そしてペニーさんが幸せそうにくつろぐシーンで、ハッピーエンド。「できっこないをやらなくちゃ！」のかえで組にぜひ、贈りたい物語です。(杉本裕子)

◎竹下真理子先生から。



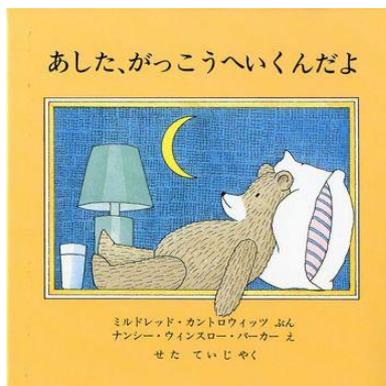
『ことばコレクター』

作：ピーター・レイノルズ 訳：中川 千尋 出版社：ほるぷ出版  
2022年 1,650円

皆さんは、何か集めている物がありますか？この絵本は、“ことば”を集めているジェロームという男の子のお話です。集めながら、いろいろなことに気づいていきます。“ことば”からもらう様々な気持ちも味わっていきます。そして、“ことば”をつなげて詩にすると、周りの人々が喜ぶことも知りました。この絵本をよんでいると、“ことば”の力を感じて勇気がわいてきます。

新しい世界でも、自分の気持ちや考えを“ことば”にして、周りの人たちに伝えられますように・・・ きっと、“ことば”の大きな力が、あなたに勇気を与えてくれるはずですよ！（竹下真理子）

◎近藤千春先生から



『あした、がっこうへいくんだよ』

ミルドレッド・カントロウィッツ文 ナンシー・ウィンスロー・パーカー絵  
せた ていじ 訳 評論社 1981年 1100円

最初から最後まで、男の子がぬいぐるみのくま・ウイリーに話しかける展開のおはなし。「あした、がっこうへいく」男の子のゆるる“心”が手に取れるようで、ラストはなんだか胸が熱くなって、男の子に「いってらっしゃい」とそっと手を振りたくなります。子どもにとっての人形やぬいぐるみはその子と“共に生きる”ほどに、その子の分身となりえること(幼い子の一過性の玩具ではない)、そして子どもはときに、自分自身の不安をのりこえるすべを自らひきよせて成長することに思い至ってハッとします。メッセージ性の強い絵本にはつい身がまえてしまう習性のあるわたしですが、この絵本の独特な魅力にはうなるしかありません。(近藤)

・絵本はざっくりと次のように対象年齢にそって紹介していきます。ただ対象年齢はあくまで目安です。お子さんが興味を示した絵本、お子さんに読んであげたいと思った絵本を見つけたら、手にとってみてください。

① たんぽぽ組・年少組のみなさんに②年中・年長組のみなさんに③大人のみなさんに

・「重版未定」の絵本も積極的に取り上げます。図書館に入っていますし、リクエストが多くなると復刻される可能性もあります。

・紹介した絵本は重版未定も含めて藤井チズ子前理事長からいただいた寄附金で極力入手し、本の部屋に入れます。藤色のテープが目印です。